

# まさか。突如大都市を襲った。 '95年1月17日未明。

平成7年1月17日午前5時48分に起きた阪神・淡路大震災(兵庫県南部地震)は、日常の社会生活を一掃にして崩壊させ死者6千278人(内、1.17)、負傷者34900人、倒壊家屋19万2706棟(40万6337世帯)、損失家屋746戸(8322世帯)、被害額は約9兆9830億円(数字はいずれも兵庫県災害対策本部資料より)と戦後最大の震災となった。

この阪神大震災は震源地を淡路島北部とする神戸市及び阪神地域で発生した内陸・都市型下型地震で、淡路島から阪神間へ向けての複数の活断層の変動によるものと見られマグニチュード7.2。各地の震度は神戸が震度8(一部神戸市須磨区から西宮市にかけて震度7)のほか京都、彦根が震度5、大阪、奈良、和歌山が震度4などのほか関東から九州までの広範囲な地区で揺れを記録した。

特に被害の大きかった阪神間では、阪神高速道路神戸線の橋げたが約630mにわたって倒壊。名神高速道も西宮市で高架橋の橋げたが落ち、中国自動車道は宝塚-西宮北間で橋脚が崩れ、阪神間の国道も2ヶ所で落橋や陥没に陥没ができるなどの被害が出て、道路交通網が寸断された。

鉄道では阪神間と大阪をつなぐ通勤・通学の動脈であるJR、阪急、阪神電鉄のすべてが途中の高架部分が落ち、分断されたほか新幹線も姫路-新神戸間で8ヶ所の高架橋が落下。神戸高速鉄道では地下に造られた大開駅(神戸市兵庫区)のホームの天井がV字型に崩れ落ち「地下鉄は大地震でも安全」との神話が打ち砕かれた。

戦後最大の震災となった阪神大震災の影響はあらゆる面で続いているが、現在、行政及び民間の復興に向けた力強い動きも活発化、予想以上に早い復興が進められている。

各行該では復興に向けた各種プロジェクトが推進される一方、自宅が倒壊及び焼失した住民の中で、従来の土地に住宅建設を進めるなどの動きが出ている。各被災地が完全復興するにはなお時間がかかるものの着実に復興に向けて動いている。

●震災  
しんかん

善哉：液化ガスで道路の亀裂から土砂が噴き出した付近を調べる被害の専門家 上右：阪神が通っていた山陽新幹線(西宮市) 上中：豪煙上がる神戸市街 上左：マンション1棟が落ち車が下敷き(市南區) 下：国際貿易の拠点神戸港の地割れ(神戸六甲アイランド)

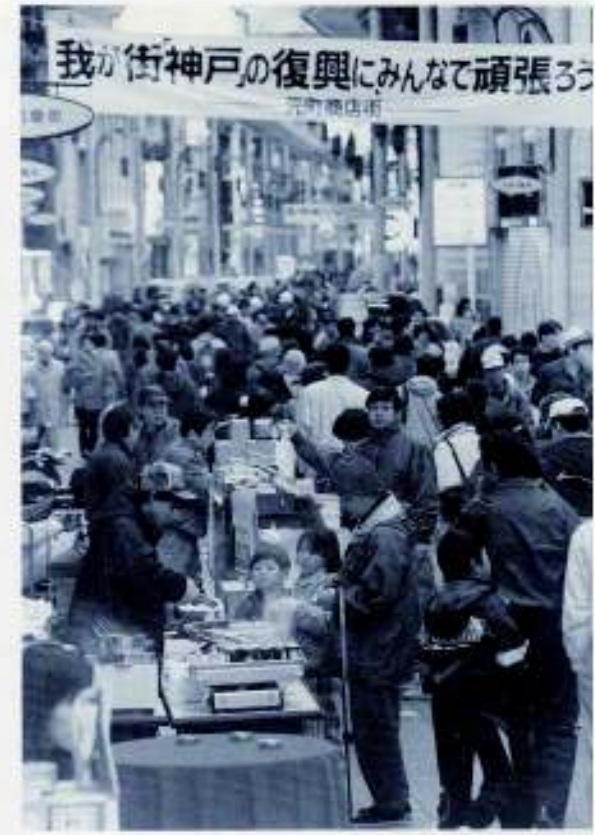




写真  
上右：倒壊した阪神高速道路（神戸市東灘区） 上左：都心三部の大宮ビルの倒壊  
下：崩土と化した神戸長田地区



写真  
右上：交通の一部閉鎖でにぎあつ神戸・元  
印船店街 右下：ポンテフィアの校舎倒壊を  
受け取る被災者（神戸市東灘区学校にて）  
左上：神戸市街の交通渋滞を避けて自転車で  
移動する人たち 左下：1月25日J.R.が再開  
まで閉鎖。離れた駅に出発の列





## もくじ

「震後」/「震前」/「震中」

はじめに 理事長 小松秀雄

### 1. 阪神・淡路大震災の状況

#### (1)地震の概要と特徴

①地震の発生状況

②地震の特徴

③被害の概要

④被害の特徴

⑤被害の被害

⑥被害の発生状況

⑦日常生活の被害(被害の被害)

⑧被害の被害(被害の被害)

⑨被害の被害(被害の被害)

⑩被害の被害(被害の被害)

⑪被害の被害(被害の被害)

⑫被害の被害(被害の被害)

⑬被害の被害(被害の被害)

⑭被害の被害(被害の被害)

⑮被害の被害(被害の被害)

⑯被害の被害(被害の被害)

⑰被害の被害(被害の被害)

⑱被害の被害(被害の被害)

⑲被害の被害(被害の被害)

⑳被害の被害(被害の被害)

㉑被害の被害(被害の被害)

㉒被害の被害(被害の被害)

㉓被害の被害(被害の被害)

㉔被害の被害(被害の被害)

㉕被害の被害(被害の被害)

㉖被害の被害(被害の被害)

㉗被害の被害(被害の被害)

㉘被害の被害(被害の被害)

㉙被害の被害(被害の被害)

㉚被害の被害(被害の被害)

㉛被害の被害(被害の被害)

㉜被害の被害(被害の被害)

㉝被害の被害(被害の被害)

㉞被害の被害(被害の被害)

㉟被害の被害(被害の被害)

㊱被害の被害(被害の被害)

㊲被害の被害(被害の被害)

㊳被害の被害(被害の被害)

㊴被害の被害(被害の被害)

㊵被害の被害(被害の被害)

㊶被害の被害(被害の被害)

㊷被害の被害(被害の被害)

㊸被害の被害(被害の被害)

㊹被害の被害(被害の被害)

㊺被害の被害(被害の被害)

## はじめに

「阪神・淡路大震災」それは、平成7年1月17日午前5時46分、「ゴーツ」という地鳴りと共に地底から突如突き上げられる激しい縦揺れに一瞬体が宙に浮き上がり、続いて激しい横揺れと共に「パシッ」と火花を散らして停電、暗闇の中で地震が約20秒余り続きました。

まさに一瞬にして、神戸、阪神地域、そして淡路のまちなみを破壊し、6000名を超える尊い生命を奪うという未曾有の大被害をもたらしました。

改めて、この大震災の痛ましい犠牲となられました多数の地域住民と組合員のご家族、従業員の方々の御霊の安らぎがならんことをお祈りし、哀悼の意を表しますと共に、被災された皆様にご心痛を込めてお見舞い申し上げます。

又、全日本電気工事業工業組合連合会を始め、各都道府県の電気工事業組合及び関係団体、県内被災地外の組合員の皆様等から多額の義援金や救援物資など心温まる援助をいただきましたこと、ここに改めて厚くお礼申し上げます。

当日は、激しく続く余震の中、通信機は途絶し、組合関係者には殆ど連絡がとれない状況の中であつたが、何回かかけるうちに何とか連絡がとれるようになり、或る程度の情報がえられるようになりました。

私は、1月22日倒壊した建物や電柱、瓦礫で道路が埋まる中、単車で3時間半かけて組合本部事務所へ行き、出勤して来た役員や事務局長と徹夜で情報収集し、組合員の安否を確実しながら緊急対策の措置をとりました。

しかし、電気は一部通電してはいましたが水道、ガスは途絶、電話は思うように機能せず、最悪の環境の中で私達の使命である電力復旧の支援のため、被災地域への組合員の応援、他府県からの応援者の受け入れ等最善の努力を行い大きな成果を得られましたことは、各位の努力のたまものと感謝申し上げます。

ここに、大震災から1年を経過するにあたり一つの区切りとして、私達が未だ経験した事のない震災の状況を記録することによって、反省の材料とし、今後の復興に向けての一歩としたいと考え、この小冊子をまとめました。

何とぞ、私達の意のあるところをご考察の上、震災復興のために一丸となって歩んでおります兵庫県電気工事業組合に対し、今後ともご指導、ご鞭撻賜りますようお願いする次第であります。

平成8年1月17日

兵庫県電気工事業組合 理事長

小松秀雄

## 1 阪神・淡路大震災の状況

### (1)地震の概要と特徴

#### 1 地震の発生状況

平成7年1月17日、5時46分、兵庫県南部に震度8、震所によっては震度7の強い地震が発生し、その後余震が断続的に起こっている。この地域としては、昭和27年に記録した震度4をはるかに上回る大きなものであつた。

震源地 淡路島北端 北緯34度36分  
東経135度03分

震源地の深さ 14km  
各地の震度 6 神戸、洲本 5 豊岡 4 姫路  
など

(神戸市、芦屋市、西宮市、北淡町、一言町、津名町の一部では7)

Magnitudo 7.2

#### 2 地震の特徴

(1)人口350万人余が密集し、我が国の経済活動の中核を担う淡路北端から神戸市及び阪神地域の直下で発生した内陸・都市直下型地震であつた。

(2)深さ14kmという比較的浅い部分で発生し、断層が横にずれることにより起こつたもので、大きなエネルギーが一挙に解放されるタイプであつた。このため、地震の継続時間が短い反面、振幅が最大16mと観測史上最大になるという強い揺れを観測した。

### (2)被害の概要

#### 1 被害の特徴

(1)大都市を直撃した地震のため、電気、水道、ガスなど被害が広範囲となるとともに、新幹線、高速道路、新交通システム、都市間交通・地下鉄が損壊し、生活必需基盤(ライフライン)に壊滅的な打撃をうらした。

(2)古い木造住宅の密集した地域において、地震による大規模な倒壊、火災が発生し、特に、神戸市兵庫区、長田区などでは大規模な火災が多発した。

(3)戦後50年間、近畿には特に大きい地震が無く、各分野において緊急事態への備えが十分であつたとは

言えないが、神戸・阪神地域という我が国有数の人口密集地に未曾有の大規模な地震が発生したため、災害の規模が広がり多数の住民が避難所での生活を余儀なくされた。

#### 2 被害の概況

①災害救助法指定市町数	10市10町
②指定市町面積	1,657.60K㎡
③指定市町人口	3,588,288名
④死者(平成8年1月16日現在)	6,279名
⑤負傷者( )	34,600名
⑥行方不明( )	2名
⑦脱家失家( )	
	7,456棟(9,322世帯)
⑧避難家数( )	
	192,706棟(406,337世帯)
⑨避難箇所数(平成7年2月17日現在)	
	981カ所・209,828名

#### ⑩ライフラインの状況

区分	被災状況	復旧見込み
電気	約100万戸停電	1月23日完了
ガス	約80万5千戸が供給停止	3月末 約80%復旧
水道	約127万戸が断水	復旧日としては2月完了
下水道	被災管線延長約260km	本週日には2年を要するが早期復旧をめざす
電話	普通回線数 交換機系 約28万5千回線 加入者系 約19万3千回線	1月未復旧完了 (留置家庭分除く)



JR沿いに倒された電柱・兵庫県(関西電力兵庫営業所・点検への軌道より)



開港後の状況

区 分	震災直後（1月16日）不通区数（線）	復旧開通日（いづれも平成7年）	全線開通日（いづれも平成7年）
JR新幹線 JR（東海道・山陽本線）	京都―姫路（13） 7 姫路―西明石（4） 2	新大阪―姫路 4月8日 姫路―甲子園 1月16日 甲子園―芦屋 1月25日 神戸―須磨 1月30日	4月8日 4月1日
阪神（本線）  （武庫川線）	甲子園―元町（18） 0 全線（1） 7	甲子園―高木 1月26日 西宮―七草 3月1日 朝影―舞木 2月1日 1月26日	6月26日
阪神（神戸線）  （本線） （甲陽線） （伊丹線） （今津線）	西宮北口―三宮（18） 7 宝塚―豊能丘花屋敷（8） 4 全線（2） 2 全線（3） 1 全線（9） 2	西宮北口―夙川 6月12日 夙川―塚本 6月12日 塚本―豊能 6月1日 王子公園―三宮 3月19日 1月16日 全線 3月1日 新伊丹―伊丹 宝塚―今津 1月30日	6月12日
神鉄（有馬・三田・粟生 -公園都市線）	全線（18） 0	長田―奥川 6月22日 有馬口―青葉通 3-31日	6月22日
山陽	西代―明石（15） 7		6月18日
神戸市営地下鉄	新神戸―新神戸（8） 0	新長田・上天・三宮の3駅通過で 2月16日	3月31日
神戸新交通（ポートライナー）  （六甲ライナー）	全線（8） 4 全線（4） 0	貿易センター―市駅広場 貿易センター―南公園 三宮―貿易センター ―姫路通 7月20日	7月31日 6月23日
神戸高速（東西線） （南北線）	全線（7） 2 全線（0） 4	花隈―新港三宮 6月1日 全線	6月13日

道路の状況

区 分	震災直後不通区間	平成7年2月15日現在不通区間	開 通 日
阪神高速道路（神戸線）	全 線	尼崎以西	平成8年10月予定
（西岸線）	全 線	南横浜―六甲アイランド	平成7年7月1日
（北岸線）	全 線		
名神高速道路	西宮―初瀬渡	西宮―尼崎（東門のみ）	平成7年4月20日
東二神高速道路	伊川谷―須磨	――	
中国自動車道	西宮北―初瀬渡	――	
国道4号線	西宮―岩屋	――	
国道2号線	西宮―岩屋	――	

汽船の状況 公共岸壁着岸不能：神戸港(18)尼崎西宮芦屋港(10) 船日見込み(2年以内)

開校者総額の状況

(平成7年2月15日現在推計)

項 目	金額	備 考
1 建 築 物	約5,483,000億円	倒壊・使用不能建物等 （※注：建築施工終了の建築単価から推計）
2 鉄 道	約3,438億円	JR西日本・阪急電鉄・阪神電鉄・神戸電鉄・山陽電鉄等
3 高 速 道 路	約6,000億円	阪神高速道路・中国自動車道・名神高速道路等
4 公共土木施設(下水道 道 路 を 除 く)	約3,138億円	道路約1,000億円、河川約200億円、堤岸約6億円、砂防約6億円、下水道約1,000億円、橋梁約40億円、公園約130億円、自治体事業約525億円
5 港 湾	約1,640億円	神戸港、尼崎西宮芦屋港等 公共施設約8,000億円、民間施設約2,400億円
6 堤 め 立 丁 堀	約64億円	佐野・志賀地区約7億円、南芦屋区・芦屋地区約40億円、西宮・甲子園地区約17億円
7 文 教 施 設	約8,228億円	県立学校約141億円、市町立学校約1,705億円、社会教育施設約226億円、体育施設等約206億円、文化財約7億円、県立大学約3億円、私立学校約215億円、国立立大学約91億円、私立大学約77億円、文化施設(ホール等)約85億円
8 農 林 水 産 関 係	約1,117億円	農林・ため池等約224億円、治山施設約22億円、港湾約100億円、養蚕生産関係等約10億円、水産関係約30億円、林業施設約15億円、都市市町村の約5億円、食料関係施設等約211億円
9 保健医療・福祉関係 施 設	約1,689億円	病院約634億円、診療所約207億円、試験研究機関約60億円、看護学校約19億円、火葬場約11億円、保健センター等約27億円、福祉関係施設約40億円、生活協同組合施設約22億円(既除く)
10 商業施設・処理 施 設	約41億円	
11 水 道 施 設	約691億円	上水道約13億円、工業用水道約48億円
12 ガ ス ・ 電 気	約4,200億円	ガス約1,900億円、電気約2,300億円
13 通 信 ・ 送 信 施 設	約702億円	電気通信施設約484億円(うちNTT約300億円)放送施設約3億円、ケーブルテレビ約175億円、兵庫県設置費約8億円
14 商 工 関 係	約6,300億円	機械・装置等約6,300億円(建築物197,700億円除く)
15 その他の公共施設等	約751億円	県庁舎等約135億円、市町庁舎等約15億円、警察庁舎等約100億円
計	約39,613,600億円	

※兵庫県災害対策本部資料より抜粋。(鉄道、道路の開通日は各社の発表)

3. 余震の発生状況

兵庫県南部地震の余震とみられる震度1以上の有感地震の発生状況は次のとおり。(1月17日～1月31日まで)

年 月 日	回数	最大震度	備 考
7. 1. 17	0回	4 (M.0)	
1. 18	1回	3 (M.5)	
1. 19	2回	3 (M.2)	
1. 20	1回	3 (M.4)	
1. 21	1回	4 (M.3)	
1. 22	6回	2 (M.7)	
1. 23	1回	4 (M.5)	
1. 24	4回	3 (M.3)	
1. 25	6回	4 (M.7)	
1. 26	13回	4 (M.5)	
1. 27	7回	2 (M.5)	
1. 28	5回	3 (M.4)	
1. 29	4回	2 (M.5)	
1. 30	1回	2 (M.5)	
1. 31	4回	3 (M.5)	
合 計	188回		

(神戸県庁気象台の有感地震一覧表より)

### (3) 自家用電気工作物の被害件数

今回の地震においては、平成7年8月末現在で83件に及ぶ自家用電気工作物が廃止(通報等への報告件数。)されている。

#### 阪神・淡路大震災による自家用電気工作物廃止報告件数(平成7年8月末)

規模別(平方)		100未満	100~500未満	500~1000未満	1000以上	計
電気主任技術者の 責任区分	責任	5	18	11	12	46
	不責任	217	210	1		428
計		222	227	12	12	483

#### 設備被害件数

設備被害件数については、同一自家用電気工作物において同種設備複数台に被害が発生していても件と計上している。

#### 設備被害の状況(責任者別) 【対象地区のみ】

引込設備	266
変圧器設備	224
変圧機	186
閉鎖機	24
計測用変成器	34
その他の機器	24
配分電盤	45
負荷設備	147
発電設備	22
その他	26
合計	666

#### 地震被災地区における自家用電気工作物被害件数(用安家数)

地区	特別責任		責任	
	用安家数	被害用安家数	報告件数	被害用安家数
神戸市中央区	4	0	228	28
須磨区	8	0	375	43
長田区	3	2	148	147
兵庫区	3	3	166	81
中央区	23	7	638	294
灘区	35	3	876	95
東灘区	34	10	926	128
区域未区分	-	0	-	7
神戸市域合計	110	25	3,386	620
明石市	33	0	292	54
芦屋市	6	1	208	4
西宮市	21	5	1,205	11
宝塚市	17	2	661	8
伊丹市	26	8	754	0
尼崎市	69	18	1,732	12
川西市	1	0	664	0
市域未区分	-	0	-	359
周辺地域合計	175	25	7,566	473
淡路島全域	8	0	800	14
大浜町	42	0	2,700	19
合計	333	50	14,577	1,320

(「阪神・淡路大震災電気設備被害調査委員会」資料より抜粋)



地震被害で押し倒された鉄柱  
(関西電力兵庫営業所・点検への軌跡より)



熱や液漏れにも耐えた責任者・大正橋橋脚柱  
(関西電力兵庫営業所・点検への軌跡より)



1月17日(火)

# 早朝 神戸で震度6



## 京都ら 大阪4、死傷多数

震源淡路島M7.2、各地で被害

号外

### 100人生き埋め情報

### 28万余人つの不安

ライフライン依然寸断



### 救援求め列列

## (4)その時、どんな動きを (感想文)

### 地殻の震え

中村 幸人 (兵庫県電気工事工業組合 専務理事)

平成7年1月17日火曜日。これは、まさしく五星の一つ「火」の日であった。

日頃、冷静を自負する私であったが、地震と共に襲ってきた大きな波に、「揺れる」の大声を出したようである。家は一瞬東北に月かい大きく揺れたが、幸いにして損傷はまぬがれた。

幾層となく続く余震の中、最初に頭のみかを通ったのは、今日開催する予定の配線設計技術コンクール特別研修会のことであった。10時30分から開催の予定で、受講者の多くは但馬・淡路支部所属の皆さんである。開催の可否を早く通知しなければ、遠方の選手は出席するかもしれない。

午前7時すぎ、藤井教育委員長に電話、お見舞いもそこそこ中止を決定。但馬支部の選手は、もう神戸に向かって自動車を走らせているのではないかと心配しながら、支部事務局長宅に電話を入れた。このことは、地震による被害状況も十分把握できないままの中止決定であり、今になって考えると、当然の決断であり深く追及する余地はないが、委員長の適切な判断に感謝したい。

時間の経過のなかで、火柱が立つ神戸の街、電車の脱線、阪神高速道路の倒壊シーンなどラジオ・テレビが伝える悲惨な現実を、夢でも見ているのではないかとの錯覚に陥りながらも、急に組合の技術会館のことが心配になりました。

小松理事長、また、会館に最も近い中西副理事長に幾層となく電話するが全く通じない。職員の方々へも同じ状態。最初は呼出し信号が鳴っていたが、そのうち、その信号も無くなった。電話の通話ラッシュである。ようやく会館に比較的近い、事務局の水野職員と通話ができ、建物の被害状況の調査を依頼した。

通常、通信手段は、電話とファクシミリ利用によるのが一般的であるが、非常事態において十分な機能を

発揮しないようでは普通がない。その時適切に「災害と通信」特に、非常用通信ネットワークにつき、こんなことでよいのか、という疑問を持ったのは事実である。しかし、東京の全日電工連や但馬地区など、遠方への電話連絡は大した支障もなく、電話メカニズムの信頼を頼りながらも、大いに助かった。

待っていた小松理事長からの電話が、ようやく飛び込んできた。息を少し切っていたと記憶している。「家は倒壊寸前、今は電話ボックスからであり、電話を待つ長い行列ができていますので、長時間の通話はできません。取り敢えず、専務理事の自宅を震災臨時対策本部とし、副対策と連絡に携わってほしい」とのこと、これを了承。このことを各役員や支部長などに連絡したいと信じたが、大半の関係者には連絡できなかった。

1月18日、いつもの出勤時間より早い、7時に家を出発したが電車は不通、それではと自動車で有馬街道に入った途端、道路は大渋滞、神戸電鉄真谷駅までの約2キロメートルを約2時間費やした。これでは技術会館到着まで12時間費もかかることになる。出勤をあきらめ引き返すことにした。

午後になって、兵庫支部の佐野職員から電話が入った。「バス・電車ともに不通のため歩いて出勤した。会館建物には異状ないが、駐車場が陥没し使用不能になっている。また、事務局内部の書籍・ロッカーその他の備品はすべて倒壊し、手のつけようがない」とのこと。会館の無事を喜び、職員の方をねぎらいながら、危険であるから早く帰るよう指示した。徒歩で数時間、家屋倒壊や火災のなかを、危険を顧みず出勤し、会館の無事を報告してくれたことに深く感謝したい。

続いて、但馬支部の井上職員からの電話。「1月24日、豊岡市で開催予定の、第一種電気工事士定期講習会実施の可否につき全日電工連丸井事務局長から連絡があった。受講者には既に通知済である。本部の方針はどうか。」さらに、本部の副中央長から連絡、「関電兵庫支部より、関西電力の電気処日南班班組200名のための技術会館の使用を許可してほしいとの要請があった。」等々、これらの措置と情報の収集に一日中電話にしがらみ、夜までであった。

1月18日、今日では出勤できるであろうと、自動車を走らせたが、17日以上の渋滞、道路の破壊、家屋の倒壊、



火災発生などを考えると、怖くなり途中で引き返すことにした。

想像を超えたエネルギーによる大災害を目の前にして、胆も呆然自失するのは当然である。しかし、我々は、生活の基盤である電気工事というライフラインの一翼を担う業界であり、その組織を持っている。この非常事態に際し、何が行動を起こさなければならぬ。何ができるか。組合員2,400人の大多数は、内線の工事業者であり、電気製日に必要な外線工事を担当する業者は数える程しかない。

3年前発生の台風が連日被害による大停電に際し、組合各支部に設置している「でんき工事ホームセンター」に、多くの消費者から瀬川の電話が殺到した。しかし、内線を担当する組合員は、なす術がなかった。このことを思い起こし、何れにしても電力会社に相談すれば協力できる何かがある。

早速、被災地外の支部に対し「被災地の電気の早期復旧と第二次災害防止のため、緊急応援班の編成を検討されたい。被災地での復旧作業は、所属の関西電力営業所と連携し実施すること。」を要請した。この緊急応援班は7支部で編成され、21日より3日間、被災地の家屋の漏電事故防止のため活躍し、多くの成果があり、加えて組合員の結束をより強固にしたものと認識している。

久しぶりに技術会館の元気な姿に接し、5時間余りに及ぶ通勤時間の苦勞も吹き飛んだ。しかし、途上から見る、あの美しい町はどうなったのか。ビルは傾き、ガラスが散乱、家園はベシヤンコに潰れ、その上に屋根だけが原形を止めている。電柱は傾きやとと電線で支えられている。道路はひび割れ、倒れた家が路上にはみ出し、各所で通行禁止、倒壊した家の中から救出された人を運ぶ救急車のサイレンの音。この悲惨な光景は、到底言葉では言い表わすことのできない、「地殻の震え」による徹底破壊である。

書類や備品の散乱で、足の踏み場も無い事務室に入り、定位置から大きく外れた机にやっとたどり着いた。地震発生後3日が過ぎ、1月20日の正午であった。倒れた椅子を起こし、改めて周囲を見回す。あの重い金庫がメートルばかり動いている。パソコンは傾き、書籍やロッカーはすべて倒れ書類を吐き出し、手のつ

けようがない。その内、兵庫支部選出の中西副理事長が来所、互いの執事を喜びあったが、会社の事務所は倒壊、住宅は傾いているとのことで、慰めの言葉もない。

取敢えず二人で、明日から被災地に到着する「緊急応援班」の受入れと今後の対策や、「兵庫県電気工事工業組合震災対策本部」の設置などを協議。幸い理事長から電話もあり、これの承認を得た。

1月21日に至り、やっと通勤可能な職員も出勤し、散乱した書類などの整理に着手、山積する仕事も軌道に乗ったと思った途端、「水がでない」よくよく考えを見ると、地震発生以後、電気は止まっている。もちろんガス、水道も断線中である。電気については、専門家集団であり、すぐに修理をして頂いたようであるが、水については17日以降は補給されていない。幸い地下の給水桶、それをポンプアップした屋上の水櫃が約2日間の断水を支えたようだ。

200人を超える応援隊のための水が無ければ、トイレも洗面所も使えない。あわてて神戸市水道局中継センターに電話したが、学校等に避難している多くの被災者のための給水で、他に配水する余裕は全く無いとのこと。事情を話しやと了解を得たが、役所も突然のアフシメントに加え、水不足の情勢で降雨量が少なく、節水を各家庭に呼びかけていた期間でもあり、配水には大変苦勞されたと思っている。以後、他府県及び県内各町役場の給水応援班によって毎日約3～5トンの補給を受けたが、水道局のご配慮に心から感謝を申し上げる。

地震による倒壊及び焼失家屋は約20万戸、これら被災者のための仮設住宅建設は、緊急の要務であり、兵庫県はその計画の具体化を急いでいた。

この計画に対し、屋内の電気配線工事を主力とする当業界としては、仮設住宅の建設に協力するのは当然のことであり、ボランティア活動として推進するべきであるとの基本姿勢を確認。1月22日、早速担当である泉都市住宅部にこの旨を申し入れた。組合員が施工した屋内配線工事及びエアコン取付等の設置工事は、約1万戸に達している。

この大震災に奮闘し、瓦礫とした状況のなかで、組合員各位が自社における事業を犠牲にし、被災地の電

気製日と漏電事故による二次災害防止に、また仮設住宅の建設に惜しまぬ努力をされたことにつき、心から感謝申し上げます。この2つの共同事業は、兵庫県電気工事工業組合の歴史に多く記されるものと信じている。

地震発生から混乱の極限に達したその時期に、緊急対策など組合事業の企画立案と、その推進を直接担当してきた一員として、まだまだ書き足りないことが沢山あるが、紙数の関係もあり筆をおくことにする。

最後になりましたが、交通事情の最悪のなが長時間をかけた救護物資を届けて頂いた山口県電工組、静岡県電工組浜松支部、またケア117スのご寄贈を頂いた宮城県電工組の皆さん、また、危険を冒し、被災地の電気製日に駆けつけて下さった大阪・京都府電工組の組合員の方々、それに、沢山の義援金を送って戴いた全日本電気工事業工業組合連合会と全国の電工組及び兵庫県電工組の組合員並びに関係機関の皆さんに心から感謝を申し上げます。

この貴重な経験を活かし、今後の組合運営を意義あるものと致したいと考えておりますので、皆様のご指導をよろしくお願い致します。

(平成8年1月元日に記。)

## 友情の絆を今も…

足立全基 (神戸市灘区・三宮支部)

松の内気分も覚めない1月17日早朝突然、体が飛び上る程の衝撃に「地震だ!!」と直感した。家は上下左右に大きく揺れ動き気が動転。揺れがおさまるまで何をどうしたか覚えていない。

幸い家族に怪我もなく、また家の倒壊は免れたが壁は亀裂ができ、ダンスをはじめ食器戸棚は倒れ見る影もなく、ガラス製品は殆んど粉々に散乱し、足の踏み場もない。爆弾の落下の後かと思える。外へ出ると近所の皆さんが「怖かった」「怖かった」の連発。そして、お互いの無事を喜び合った。

時刻的には朝食の時間が近づいていた、ところが水が出ない。水道管が破損したのであろうか。洗面ももちろん湧ませていない。テレビニュースも見ようとし

たが停電である。携帯電話で地震の状況を知る。被害が大きく悲惨な状況であるが詳細はまだ不明である。非常時の避難先が近くの小学校と思い出した。まず給水車が来ないかと、バケツを持って走る。学校はもう避難者でいっぱいである。暫くすると給水車が来るとのことである。長い列に並んだが、結局無事に終り水を買えず、次の給水時間も不明のまま帰宅した。やむを得ず近所の皆さんと、近くの大手スーパーにボトルの水を買うべく3時間余りも並んだ。が、こでも1本の水すら買えなかった。

午後、電気工事組合の友人から無事消息の電話があった。水の出ないことを話すと道路交通事情の悪いなか、長時間をかけて飲み水を持参してくれた。これでひとまず、10時間ぶりにお茶を飲み食事にありつけた。

平素は、水の有難さがわからず、地震以後は非常用の溜水につつめ節水は勿論のこと、友情の厚いことに生運忘れることのできない絆を今もかみしめている。

## 全壊、全焼を体験

村岡 勝 (神戸市長田区・兵庫支部)

「ゴオー」という異様な山響りのような地震に、ハッ!!と目が覚めた。と、両側にガタガタガタと揺れるや寝室の「和ダンス3段」が飛び寝ていた妻の布団の上へドサツ!!と倒れてきた。「オイ大丈夫か?」と思わず抱え押入れのフスマを開き頭から先へ上半身を入れ、下半身に乗りかかっているダンスを除きながら、3階に寝ている娘の名前を大声で呼び続けたが返事がない。

もう一度振り戻しが来るに違いない。動かぬようにと言う間もなく二度目の震動が来た。天井から40W2灯用の和室器具が畳の上近くまで外れ、VA線をやつと吊り下がっている状態の中、少しづつ起き懐中電灯をつけた。見ると調度品が全部部屋中に散乱している。無我無夢中で作業着を着けた時、娘が2階から降りて来た。幸いに無事な姿を見て「ホッ!!」とし、取敢えず散乱した品物を片付けにかかった。

この間、約10分程であったろうか。2階の窓を開け外を見た途端、「アッ!!」と、驚いた。附近は木造住宅が倒



れ道路をふさいでいる光景が点々と続き、100メートル位先のアチラコチラで火災を起こしている。車を出そうと車庫へ走ったが、そこには車の姿がない。5階建マンションの2階が1階となっている。2階の窓から顔を出している人を脚立を梯子にして掛け駆けようとしている男性が見えた。これなら大丈夫と、我が家に帰ると、妻と娘が非常用の食料と衣類をまとめている。

#### ▷ガス漏れが発生

「オーイ村岡!!何をしている早く逃げなければ爆発が起きるぞ!!」の声が聞こえるので、2階から顔を出して見ると近所の人達が騒々しく急いで避難している。1階への階段は下駄箱の崩れで使用出来ず、やむなく2階の窓に梯子を掛けて買い一家3人が道路に出たが、まとめている食料、衣類はそのままにし灘池小学校に避難した。

#### ▷延焼を止められない

小学校の体育館に着き、目的に店に帰ると、従業員も駆けつけてくれていた。店舗付近にある燃えるような物を片付けようとしたが、火の手は東西南北より見る間に焼きつきし、南隣の作業場まで延びて来た。その作業場にシンナーの在庫があり、それが爆発。窓から炎を出し私の店の窓へ飛火して来た。「絶対絶命」である。消防員が道路の角に立ち「危険だから近付かないように」と、注意するのみで手の付けようがない。

#### ▷妻が骨折を折る

避難所の学校内の電話で、救急車を依頼したが、「生命があれば手術するように…」の返事のみ。幸いに長男が駆けつけてくれたので、自家用車を譲渡してもらい、私の親里に辿りつき3日目に、そこでの総合病院に入院させる事が出来た。病院の近くで空家を借り娘が看護にあたった。

#### ▷体育館の「リーダー」

避難所で3日目くらいに「リーダー」の役を受けることになり120人程の世話をする事になった。

朝は、4:30分頃に起床。自衛隊の方が運んでくれた水を沸かすための薪割りから釜炊きをしお茶を出す。食事が茹く。配るのに追われる。夜は7時~7:30分頃より区役所の係員を交え「会議」に追われたが、友人、知人の心のこもった物資、食料などの運入れを戴き心より感謝し嬉しい思い出になった。

#### ▷電気工事の依頼を受ける

焼け跡に、現在住所の立札を建てたので色々工事の依頼があるが、車もなければ道具一つなく同業の友人から借用し、従業員両名が共同作業の形でやっと働いてもらう事が出来た。

#### ▷交通事故に会う

3月下旬、仕事先へ単車で向う途中、交通事故に会い左足骨折の憂き目をみた。丁度妻も、何んとか入院ができたので、帰神してもらい東尻池のマンションの空家一戸を借りたことで、世話をうけながら通院する事が出来た。この間、2ヶ月が過ぎた。

#### ▷コンテナを1ノース

自店を撤去した跡地へ、取返えずコンテナを殆ど少しづつ材料、工具を揃え縮々ながら営業するようになったのは、5月頃よりであった。

6月末、西神中央駅よりバスで西区の体育館前に出来た仮設住宅に当り、やっと人並みの生活に復帰できたが、通勤に長時間を要した。

#### ▷5階の2階建を

夏も盛りの炎天下、工務店の世話を古舗付住宅の建築にとりかかり、8-9月の2ヶ月で完成。10月10日の大安に引越し「ホッ!!」とひと息あけて組合員皆さんや、友人、親せきの有難さをしみじみとかみしめた。

#### ▷同居中の娘のこと

3月、新神戸駅に近い北野町に、娘の友人が居住しているマンションに空家ができたことで、そこに移り会社通勤することになり、私も夫婦2人暮らしになった。これも震災のせせるところ…。

#### ▷老母にムチを打つ

3年間位いんちを差した事のない日々を送っており、この身体で、その上、足も未だ完全に治癒してはいないが、膝のまれて仕事の依頼を受けた以上、断りも出来ず単人前位で良ければ…との理解のうえで働いているのが現状。また、生活も困窮しているが少しでも人の役にたつ事ができたら、と思う今日この頃。

## 何んとか助かった!!

小田 義明 (神戸市須磨区・兵庫支部)

「ドットドン」この大きな音が目が覚めた。辺りを見廻したが真顔で何も見えない。これは何んとかしなくてはと思い、手でガラスを割り枝を折り手を延ばすとベニヤ板のような物。また枝が手に触れ、これは天井だと判った。

この時初めて地震であることに気が付き、「落ち着いて」と、自分に言い聞かせながら天井板を破り枝を折った。その頃からガスの臭いがしはじめ段々臭いがきつくなってきた。これは大変早く出なければ、その時、隣に寝ていた女房の、早く助けて…。と叫ぶ声を聞いたが、自分も動きが取れない状態である。その上、まっ暗で出口もわからず闇の中を手探りをしている時、上の方から息子が「こっちこっち、こっちが出口だ!!」と呼んでいる。その声のする方へ手探りでいきやっとなに出た。女房がまだなので下に声をかけると返事がありすぐに出てきた。

多分私の後に続いていたのであろう。

これで家族皆が助かった。と判り、ほっとした。2階は鈍めに懐き歩くのもやっとな。何んとか表の窓に這りつき外を見ると「びつくり」電柱や自販機が窓の傍にある。その区分けがなく、これは我が家が隣りの方へ納まっているのだと…。

思えば、私1階から出たところは階段のかかっていたところで、何んとか自販機や下のシャッターボックスを足場に道路に降り、助かった。

この時は、すでに空も明るくなっていた。前の駐車場に行き、ただ呆然と、何も考えられず「無」の心魂にあった。その隣の事は何もわからず「ジャマ姿に裸足のままで寒さに気がつき2階へ服を取りに行き何んとか寒さを避けることが出来た。

気持ちも落ち着き近所を見渡すと南隣りはベシヤンコ、私の家の北4軒は、私の家と同様に1階がベシヤンコ、2階は1軒ずつずれている。私らが助かった穴にあるはずの階段は何処にも見当らない。探してみると南隣の裏敷れた中にあるのが見えた。何故階段だけが遠くへ飛んだのであろう。「不思議」

私の家の並び10軒ほどで死者4人、重傷者1人が出た。死者の方のご冥福を、また、重傷の人の1日でも早い回復を祈りながら、その夜から、斜前にある駐車場で近所の人達と一緒に世話になることになった。

これから先、どうしようと思いつながら、何んとか頑張らなくては…と。

## 倒壊から復帰へ

花田 庄一 (西宮市・西宮支部)

思い起こせばそれは当日未明、2階で就寝していた私ら夫婦を襲った、ぐらぐらとやや今迄のものより強く揺れ続け、私は少し前から目が覚めていたが、又かとの時はまだ驚かなかった。目覚めた家内が「おとうちゃん地震や」と叫んだ「うんちよつときついな」と言った直後、ドドンという異様な音と共に激しい揺れが起き、まず部屋の両側の洋服箱、整理箱、その上のもので加え、陣列ケース、テレビ等が布団の上へ飛び落ち、その後から洋服箱が落ちてきた。

幸い当日、私は頭の上まですっぽりと布団をかぶっていたので怪我は2人もなかった。やがて地震は止まったが停電で暗くよく見えないが、周囲の様子もいつもと違っている。上向きの体を何とかがきになるうと寝返り布団から抜け出そうと懸命にもがくが、かぶっている物が重くて動きがとれない、やっとの思いで這い出して、先に出た家内に「ショーケースが落ちてガラス戸が割れ散乱している。気を付けろ」と言いながら隣の部屋にもかくでるよう言ったが機が聞かない。顔外し入ったが、また大室である。前々日の日曜日、京都での僕の結婚式に参列して帰って来た直後だったので、着用した着物は周りに吊り下げ、和室の扉を開き引出しは半分ぐらいつつ風当たりのよいように引き出したので、それらが飛び出し散乱し、そのうえに和室の、鏡台等がたおれ足の踏み場もない状態である。

やっとの思いで2人が階段に這り上ったが、そこも本物の扉がちぎれとび割れ、散乱したガラスである。家内の集めた小冊子をかき分け、鈍めになった階段をやっとの思いで降り、玄関まで来たが出入扉がゆがみ、遠



れて出られない。非常用においてあった懐中電灯を手探りで取り、辺りを照らし見て、一階のあまりの破壊のひどさに驚いたが、とにかくにもと玄関を破って外に出た。

やっと夜が明けはじめ、初めて近所の惨状を目前に見て成すすべもなく茫然としたが、2人が阿呆に口走ったことは近所に住んでいる長男、次男、両家族の安否である。昨夜、我が家で母と食事を共にし入浴までした。それと次男のほうは2才に満たない男の子、3月上旬に出産予定の娘がいる。家内から「その方が気掛かりや、おとうちゃん見に走って」、それと「おとうちゃん店は潰れているやろなあ」と言うので、「うんそらあかんわ、完全に潰れているやろなあ」と言い強し自転車走った。

幸い、次男宅建物は殆ど被害も少なく奇無事なので、「これから兄貴の所と店を廻って帰る。余震に注意するように」と言い、中津浜線に面した長男宅に行った。そこも建物は殆ど被害のない様子で安心したが、いくら扉を叩いて叩んでも応答がない。おがしく思いながらそこを後にし、店の方へと向かった(後刻知ったのであるが、その時長男は、私らの安否を知るために、家族を車に乗せ我が家に向かっていて、駐車場の車の発振を確保すればすぐ気付いたが、何しろ気持ちが悪化していたので考えに至らなかつた)。

約50m位北に行くくと、いやに車が渋滞している。見るとガード下が道路を横断するような形で砂利が少し積みの状態で、それに軽自動車が引っ掛かり動けなくなっている。「おがしく」と思いながらふと上を見ると、なんと新幹線の線路の間から青空が見える。驚き同時に、砂利は線路から落ちてきたものであると理解できた。注意して見ると、あちらこちらで線路の床板が外れ落ち柱が折れ鉄筋が曲がってはみ出してあり、阪急今津線路上にも架梁床板が落ちていた。自転車を押し進め中津浜線道路から店へと向かい、前方を見透すと家屋の倒壊、電柱の倒れ、架線のぶら下がりが見える。また、1階が店舗、2,3,4階住宅のマンションの2階部の窓下の手摺り板が、ほぼ目の高さになっている。注意してよく見ると何と1階の店舗部が潰れてなくなっている。驚きながら500m位先の我が店の前に到着した。

思った通り潰れ、少し道路倒へ傾いている。近所も1軒は半壊、5軒は全壊である。約20m程の所に住んでいる社員が、大学生の息子を連れ、私と同時位に店にきてくれた。自分の家は半壊との事。隣の主人が、杉本さんが倒壊し、建物の中に閉じ込められている。救助に行ってもらいたいと言うので、私ら3人はすぐ約70m位南の杉本邸へと動けた。1,2階が押し潰されたような形で全壊している。

東京の方へ就職した息子さん家族が、連休を利用して帰宅、2階で就寝していた。奥さんと女の子は、既に近所の方々に助け出されていたが、息子さんとその両親は閉じ込められたままとする。大声で呼んでみると応答がある。日曜大工の鋸やハンマーでは、どうすることもできないので、出入りの造園業へ「チェンソー」「掘定鋸」はねてこ」をもち応援依頼に走って貰う。一方、近所の方々とともに位置の測定を行い、屋根瓦の剥ぎ取りから始めた。

造園業の若主人が、半壊の自分の家の事を後回しにし、駆けつけてきた。大勢の力を合わせ救助作業の開始。先ず、潰れた2階の開口部より脱出を促す。「はい」と、両手で自身の体がかばい続けられたのであろう。まだ一歳生前という男の子が両手を差し出してきたのには驚いた。次に息子を脱出させたが、まだ両親が1階に閉じ込められていると言うので、大声で呼んで見ると、奥さんから小さな声で応答がある。場所を確認すると今まで作業足場にしていて下部である。屋根を剥ぎ取り、梁、角材、畳等を有除開口したが、布団1枚が頑固のクッションになり助かっていたが、両足部が倒れた車輪に挟まれ、その上から潰れた建物の重量で、身動き一つできない状態である。大声で幾度も助ましがら「ジャンキ」で救出。救急隊員にも手伝って貰い屋根上部より救急車に乗せることができた。皆ホットしたが、その1時間程前に救出された主人は、廣家に移し近所の病院の医師の往診を受けたが、帰らぬ人となった。倒れてきた物により内臓破裂を起したものと聞いている。救助活動に参加した方々と、お互いの労をねぎらい帰路につき、倒壊家屋を見ながらやっと潰れた我が家に辿り着いた。

当分、次男宅へ書類等を選び届候と決め、取り出し可能なものの取りまとめを頼み、西宮市役所へと向か

ったが、国道171号数線の道路床板架橋が阪急電車線路上に落ち通行不能。国道2号線はじめ周辺道路は何れも大渋滞なので、役所近くで車を置き市役所に到着し設備課、調達課など訪れた。設備課長より、要請に即出勤できるように協同組合員に伝達してほしいとの依頼を受けた。庁舎内部も大きな被害を受けたようである。夜に市役所を出て市協同組合役員宅へ行き、役所設備課長の談話を伝え、また知照と電話連絡等を依頼して廻った。途中、津門仁徳町の兵庫工西宮支部前も通ったが、建物はひどい被害の様子であった。

翌18日、やっと自社の状況を調べる事ができた。ひどい被害だが、築後60年余りだった木造平屋建てであるので、無理もない。瓦、土等を屋外に出し片付け、保管中の図書、原図、製図用具、事務用機器、備品類等を移転先の現事務所へ。また、在車西岳、工具類を倉庫へ雨天を気にしながらやっと移した。倉庫まで僅か2m余りなのに171号線に面している為、交通事情が悪く1往復に約1時間近くもかかり、また、屋内の瓦、土の取り除きと搬出もやりながらの作業は困難を極めた。建物は、これ以上倒れることはないと思い、翌日の防雨対策と転じた。資材の仕入れも思うようにできない状態なので在庫品、手持材を使用し、日没までかかって窓に対する養生を終えた。

震災の日から3日目には、大方の地区への送電があり応急復旧は有り難かったが、電話は約1週間余り全く不通で、その間絵で携帯電話の使用である。それも西宮市内側は殆ど日中は通話ができず、朝7時10分前位までか、夜10時以降位が可能時間帯で、市外との通話の方がよく通じる有り様でどうしようもない。潰れた店へは電話が復旧してきたが、移転したビルの事務所への回線の移設工事の見込みが立たないとのNTTからの返事に辛抱できず、自社で電話設備の移転を行い、潰れた店に入っている電話線をケーブルに接続延長し、約200m程の距離を公道のNTT既設ケーブルにくくり付け配線。事務所へ開通させた(NTT側もそれを承認した)。行政機関の電話は、地震後も開通しているので我々民間の事情が判らない。

電話連絡も満足に取れない市内業者に対し不信感を持たれた様子も感じられた。応急復旧工事に就いては他へ一括発注され、そのため我々市内業者は、色々

と不利を被る結果になったと私は思っている。

地震の翌18日開電西宮営業所から工組西宮支部(岡本副支部長宅)へ小工事の受付は何れへ連絡すればよいが、との問い合わせがあり、岡本副支部長、岡本事務課長夫婦が半壊の事務所に入り必要書類関係、事務機器、備品、什器等を自宅に運んでくれたので、支部は岡本事務所宅1階の部屋をその日から使用することになり、小工事の受付を行った。6月1日、現在の今津曙町の新事務所へ移転するまでの約5ヵ月間、大変な迷惑をかけた。その間の小工事受付は、1月72件、2月154件、3月72件、4月50件と落ち着き、以降も平均並が続いている。それぞれ組合員皆さんの奮力の賜ものである。

振り返れば平成7年は震災のため本部、また支部ともそれぞれの立場で、大変な年であった。二度と、このような事が起きないように願っている。

## 家族の安否を知る10分間

川西 三雄 (津名郡北淡町・淡路支部)

あらゆる家が揺れ、地震か?と思う何秒も経たぬ瞬間。凄く上下の揺れが始まり、これは何時もの地震とは違うなと思うと同時に「?!?!?!?!」と、大きな物音と共に2階が傾き始めにドサッと下に落ち、2階で寝ていた私も、布団と共に斜めに下の方とずり落ちた。その時、同時にダンス、本棚も私の上に落ち大変な重さで圧迫されたが、幸い最初の大きな揺れを感じた時、すぐに上布団を跳より被っていたので事無きを得た。

電気が消え真っ暗で、しかも余震が続くのでそのままの状態を保ったが、1階に居る家内の事が心配で大きな声で家内の名前を呼び続けた。しかし返事がない。じっとしていられず傾いた床から這い出し、窓の明かりの見える方向へ手探りで障害物の中を這い抜けやうと窓まで這り着き、もう一度家内の名前を大きな声で叫ぶと、今度は、はっきりと「大丈夫や」と声が聞こえ、「生きている」と、瞬間の救びを感じた。



## 2. 組合関係の被災状況

### (1) 組合員

支 部 名	英 春			負 傷 者			事業所の被害				合 計 人	7月1日 現在 組合員数 人	被災率 %
	組合員	家 族	従業員	組合員	家 族	従業員	全 業	半 業	一部閉	全 廃			
三宮支部	—	2	4	6	2	—	67	45	32	1	145	206	70.4
兵庫支部	—	2	3	—	3	1	103	64	65	19	251	324	77.5
尼崎支部	—	—	—	—	—	—	8	20	37	—	65	223	29.1
西宮支部	—	1	—	2	2	1	30	40	19	—	89	184	48.4
明石支部	—	—	—	—	—	—	6	8	26	—	40	134	29.9
加古川支部	—	—	—	—	—	—	—	—	4	—	4	178	2.2
淡路支部	—	—	—	1	—	—	13	12	17	—	42	179	23.5
合 計	—	5	7	9	7	2	227	189	200	20	636	1,428	44.5
その他の 支 部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	938	—
合 計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2,366	26.9

[注]：被災率とは事業所の被害合計(人)を組合員数(人)で除したものである。

### ⑫組合の建物、備品等

#### ①本部

ア) 建物(取得鉄筋コンクリート造の耐震建て)

イ) 外壁

・西側正面の2階部分に2回の地震1カ所。

・建物周囲に多数の亀裂。

・玄関庇壁のタイル剥離。

ロ) 床

・駐車場全箇所陥没。(約25cm)

・地下に埋設されている水道管破壊。

・玄関ポーチのタイル剥離。

ハ) 内壁、柱、梁

・1階から5階までの各部屋、通路等に多数の亀裂。

・2階から4階まで雨水の浸透。

ニ) 隣接地とのフェンス一部破壊。

ホ) 備品、什器

・3階事務所の書棚等の備品は、大半が倒れ一部はガラスが割れたり変形。書類は床に散乱。又、2カ所(3階と5階)の倉庫の書架が倒れ書類が床に散乱。

・4階の電気高等学校実習室の備品が散乱。教室の書棚が倒壊。

・書棚2台、食器棚1台、電子レンジ1台使用不能。

・ファックス故障、食器類多数破損。

フ) 水道、ガス停止。

#### ②三宮支部

ア) 建物(鉄筋コンクリート造の耐震建ての1階)

入り口の階段破壊、外壁及び庇の一部に亀裂、神戸市から一部破損の罹災証明を受ける。

イ) 備品、什器

事務所書棚等の備品が倒れ入り口を塞ぎ戸が開かず、書類は床に散乱。

書棚3台、冷蔵庫1台使用不能、食器類多数破損。

#### ③兵庫支部

ア) 建物(本部建物の3階)

イ) 備品、什器

・事務所の書棚等の備品が倒れ、書類が床に散乱。

・書棚3台使用不能、花瓶、食器類多数破損。

#### ④尼崎支部

ア) 建物 被害なし。

イ) 備品、什器

書棚2台、複写機1台使用不能。

#### ⑤西宮支部

ア) 建物(木造2階建)

全壊。

イ) 備品、什器

机、椅子各3基、クーラー1台、テレビ1台、複写機1台、書棚3台、食器棚1台、食器類等、建物と共に全壊。

#### ⑥明石支部

ア) 建物(木造2階建)

全壊。

イ) 備品、什器

クーラー1台、電子レンジ1台、冷蔵庫1台、書棚一式、食器棚1台、掃除機1台、食器類等、建物と共に全壊、ファックス破損。

震災対策本部を囲んだ組合本部会館





### 3、組合活動と事務局機能

#### (1)震災関係組合業務記録

##### 1月17日※

- ・午前6時46分地震発生。
- ・午後、副理事長及び事務局職員がそれぞれ徒歩で状況調査のため組合本部まで行くも、鍵を所持しておらず又余震が激しく危険な為、建物の中に入れず、外観から建物及び駐車庫に被害のあることを確認。
- ・1月17日開催予定の教育委員会及び設計コンクール研習会の中止を教育委員長と協議のうえ決定。その旨を関係支部の事務局に連絡。

- ・本部機能停止のため、理事長は、「震災臨時対策本部」を専務理事宅に設置することを決定。
- ・電話が通じにくく、互いの連絡がとれず。

##### 1月18日※

- ・関西電力兵庫営業所の担当係長から、事務局職員宅へ「県内、県外からの震災復旧市員約200名受入の為、組合会館を使用させてほしい旨」依頼の連絡あり。

- ・上記依頼を副理事長宅へ徒歩等で連絡。
- ・兵庫支部事務局職員が組合事務所へ徒歩で出勤のうえ、建物の中へ入るも書庫等が倒壊の恐れあり。組合会館の被害状況と神戸市内の惨状を「震災臨時対策本部」に通報。

- ・1月24日開催の第一種電気工事士定期講習について、但馬支部から専務理事宅及び担当者宅へ計画通り実施するか否かを電話で協議。

##### 1月19日※

- ・「震災臨時対策本部」は、各支部事務局に対し次の要請を行った。

1.被災地の電気早期復旧と第二次災害防止のため、緊急応援班の編成を検討されたい。なお、被災地での復旧作業は、所属の関西電力営業所と連携し実施する。

2.これの実現のため、支部長は緊急役員会を開催し協議されたい。

3.組合員の被害状況を調査されたい。

4.本部機能停止のため、事務連絡については、担当の自宅に、また緊急事業の発生は、「震災臨時対策本

部」へ電話すること。

- ・関西電力神戸・姫路両支店に対し、組合の「緊急応援班」の編成方針を説明し、この件を管轄の各営業所に連絡されたい旨要請。

- ・1月24日開催予定の「但馬地区第1種電気工事士定期講習会」実施の可能性につき、但馬支部を経て全日本電気工業業組合連合会事務局より打診あり、テキストは、鳥取空港経由で送付することで開催を決定。なお、2月に3回開催する予定の定期講習会はすべて延期し、改めて協議する旨要請。

- ・「本部で開催する委員会及び行事は当分の間中止する」旨、各支部へ通知。

- ・関西電力兵庫営業所から要請を受けている組合会館開放について、5階大会議室及び4階教室の一部を臨時宿舎として開放することを回答。

- ・約200名の応援者の宿泊開始。(4階教室は2月3日まで、5階大会議室は3月18日まで使用)

- ・電気高等技術学院を2月4日まで休校とすることを決定。

##### 1月20日※

- ・本部副理事長、専務理事出勤。直ちに組合本部に「兵庫県電気工事工業組合震災対策本部」を設置。

- ・午前8時30分、播州支部事務局より「緊急応援班」として播州・西播・加古川の各支部からとりあえず18名が神戸に急行する旨連絡あり。

- ・但馬支部理事より、「緊急応援班」編成完了、1月21日午前4時豊岡市出発、午前10時関西電力兵庫営業所に着く予定、応援組合員数22名との連絡あり。

- ・尼崎支部長より、関西電力尼崎営業所と連携、管内及び阪神地区被災地の内線復旧と漏電防止の作業を開始する旨連絡あり。

- ・組合会館内断水のため、トイレ使用不能。神戸市環境局高松事業所に依頼し、仮設トイレを設置。

- ・神戸市水道局中部センターに給水車による給水を依頼。

- ・関西電気工事工業会の定例会議理事会在、午後2時より開催され理事長が出席、兵庫県電気工事工業組合の地震緊急対策について発表、工業会は次の対策を協議決定した。

(1)大阪府電工組、4支部から車両42台、乗員84名、ま

た、京都府電工組、約16名が、関西電力本社お客様本部ネットワークチーム配電課長指揮のもとに、21日より2泊3日の予定で、被災地区の三宮・兵庫支部管内の漏電検査(不点検)にあたる。

- ②関西電気工事工業会傘下の2府3県において、1組合員約3千円の義援金を兵庫県電気工事工業組合に贈る。

- ・山口県電工組、静岡県電工組浜松支部より、「被災地に行きたいので必要とする救援物資のリストを送ってほしい」との電話。神戸市地域福祉課と相談、FAX送信した。

##### 1月21日出

- ・副理事長、専務理事、事務局職員出勤。
- ・倒壊した書庫、散乱している書類等の整理。
- ・播州支部より姫路支店管内の「緊急応援班」出勤状況報告。出勤人員約80名、車両19台で本日の早朝出発、交通渋滞のため、予定時刻に到着出来ずとの連絡。
- ・山口県電工組より、救援隊の出発予定につき連絡あり。(24日の午前11時出発、25日早朝神戸に到着予定)

- ・午前、大阪府電工組より約100名、京都府電工組約30名の救援班が到着、直ちに三宮支部管内の配線点検に出勤。(2日間)

- ・午後8時、但馬支部理事より、本日から開始した被災地「緊急応援班」の活動状況と全員無事の報告あり。

##### 1月22日出

- ・理事長、副理事長、専務理事、事務局職員出勤。
- ・被災組合員の消息把握のため、ラジオ関西に依頼。放送によって呼びかけ。通報者は、所属支部に連絡。

- ・神戸市水道局から給水車到着、大型のポリタンクを搭載した給水車でポンプ施設がないため、リヤックリレーにより水桶へ注水。

- ・被災者用仮設住宅建設につき、電気工事部門を兵庫県電気工事工業組合員に担当されたい旨、次の機関に要請した。(午後2時)

兵庫県都市住宅部住宅建設課  
西 設備課

##### 1月23日出

- ・尼崎支部長より、「現在、支部の有志組合員により尼崎・伊丹各被災地域の電気復旧に専念している。」

旨の報告。

- ・電気高等技術学院の搬入している機材等整理。
- ・給水車到着、ポンプを設置したため水桶まで1メートルで受水可能になる。(以降2月中旬の水道改修まで、県内の各市町、他府県の給水車により、毎日3t~5tの給水を受ける)
- ・ガスは2月末まで供給停止。

##### 1月24日※

- ・第一種電気工事士定期講習会を計画通り豊岡市で開催。

受講予定者	183名
講習終了者	142名
出席率	87%

(震災の救援に出勤のため、欠席者多し)

- ・組合会館のエレベーター点検。
- ・午後3時30分、山口県電工組の救援隊到着、2-ワン車2台、キャンピングカー1台に救援物資を満載、職員で組合会館4階に運搬。

##### 1月25日※

- ・第一種電気工事士定期講習会の延期について、全日本電気工事工業業組合連合会と協議のうえ、次のとおり変更する

2月7日	を	5月15日に延期
2月15日	を	8月21日に延期
2月22日	を	8月28日に延期

##### 1月27日※

- ・組合本部において地震対策の緊急理事会を開催する。

##### (議題)

- 1.組合員の被災状況について
- 2.地震対策の経過報告の件
- 3.地震災害に関する今後の対策の件
- 4.被災者に対するグループ保険の取扱いについて
- 5.第一種電気工事士定期講習会開催日程変更の件
- 6.各種事業の開催日程変更の件
- 7.仮設住宅建設の取り組みについて
- 8.「被災地電気復旧緊急応援班」の出勤について



2.震災のため中止又は延期した事業

1.関西地区配線設計技術コンクール

2月15日、和歌山市を11月30日に延期

2.第一種電気工事士定期講習会

2月7日、兵庫県電気工事技術会館を5月15日に延期

2月15日、尼崎中小企業センターを6月21日に延期

2月22日、兵庫県電気工事技術会館を8月28日に延期

3.電気設備用OA機器総合展示会

2月11日～12日、兵庫県電気工事技術会館を無期延期

4.会議等の中止

1月17日、設計コンクール研修会

18日、道路研究委員会

20日、消防設備点検

21日、厚生委員会

25日、電気高等技術学院指導委員会

26日、共同保守管理委員会

28日、広域委員会

2月2日、総務委員会



## 4. 関西電力(株)への 支援活動

### (1)活動の概要

①被災地外の組合員に要請し、1月21日から23日まで(一部組合は20日から)播州、加古川、西播、但馬、社の各支部から111名(証212名)の参加を得て、被災地の兵庫支部13名の案内により、関西電力社と連絡をとりながら被災地の電力復旧にあたった。

②尼崎支部は、関西電力社尼崎営業所と連携のうえ、応援隊を編成し、尼崎市及び伊丹市の電力復旧にあたった。

③大阪府電気工事工業組合100名、京都府電気工事工業組合26名の協力を得て、1月21日～22日まで関西電力社と連絡をとりながら、被災地の三宮支部管内の電力復旧にあたった。

#### (1)活動内容

- ①屋内配線の点検・測定
- ②留電・換機家屋での引込線の架設と処理
- ③計器の撤去と営業所への戻入
- ④お客様の強い要望に伴う緊急送電
- ⑤配線・コンセントの増設等の小工事

#### (2)総務件数 2754,066件

(市援者数、処件数)は、関西電気工事工業会資料より)



写真 上：復旧対策打ち合わせ(同電三宮)  
左上：仮設テントへの電源供給作業  
左下：復旧作業をするの模様

## (2)復旧支援活動に参加して 時間の追われる中で

北池 豊邦 (神戸市兵庫区・兵庫支部)

1月17日過去において、幾十年間思いもしなかった此の度の阪神大震災は、私たちの多くの生命、財産を奪い去り悲しい結果となったが、「ガンバロー神戸」をスローガンに早や復旧に向かっていく。

この震災で人道を踏みかえらせた。日常生活では暑いやら、寒いやら、と生活のすべてを自然そのままだに受け入れている。これが都市でなかったら、「土地がずれ、山石が落ちて、アア、あつたなあ」と、泥土を払いのけただけで終わっていたら。

マサカ、都市の中でビルが、そして道路がこのような状態をみるとは考えられなかったことが現実を引き起こされた。しかし、私たちは自然の恵み、農作物、温泉とも太陽、地球……と、複雑な思いがある。

#### 現場の状況

関西電力の要請を受け兵庫工・兵庫支部では、中西副理事長、北池支部長の招集により、総務検査の現地調査、ボランティアの案内を実施することとなった。案内地域は、国道43号線以南東沢池町、浜瀬町方面のこと。道路方面からの同業組合員が交通渋滞の中、弁当持参で兵庫支部に集合し、関西電力担当者からの説明の後、調査地へ出発となり先導する。

火災により焼失された家屋、工場がくすぶる異臭が鼻をつく。2階建ての模範的な商店が、鼻が折れ曲がった様に地面に倒れ店の看板は地面に散らしている。電柱は架線により引込まれ傾き、引きちぎられた電話ケーブル……等。判別するのに手間取る程で、ニュース、映像以上のものである。

#### 総務調査

チームを5名に分け、2～3軒ずつ隣あわせで調査。制約がないので同電の復旧フックをヘルメットに貼る。火事場跡地とも思われたくない心境で、声を掛け隣家の人々に出迎いたが、よくしたもので、世話好きなオバサンが声を掛け、一緒について廻ってくれる。笑いが出る。協んなどで声を掛けあって、「此の家ヨーシ。」

やはり、配電盤にブレーカーがあるか、無いかで安心する。接地線(中性線)を確認しながらブレーカーの二次側を総務測定。せめて5Aは欲しいと願う。

#### 屋内の状況

家具、食器が少々片付けてあり、家族の方々は母の心配をしながらも火災の無かったことを喜んでいた。総務OK。「誰か懐を見ましたか?」いやまだです。「ドアをドライバーでこじあけると、家の中央から落下しており太陽の光が目をつける。メーターの電源を外すことにした。

配電盤から送電中になっていた。コンセントからカーペット、ポット、電源回路もすべて送電されたままであった。(漏電ブレーカーなし)家に昇る事無く、そのまま出て行ったのだろうか、もしや病院へ入院でもと案ずる。

#### 休憩

休む間もなし作業で、測定器の電池が切れたので私は支部に帰る。組合技術学院の単3電池を1箱、また食事の出来る店もなく、弁当とインスタント味噌汁をいただくことも有り難かった。

現場に戻り電池を配る。「昏からもよろしくお願ひします。」

#### 作業開始

現場は、まず入るところから片付けなければならなかった。横針の方々も大変だなあ、と、今まで思いもしなかった事が…。看板を抜き、日産車を除けメーターの下へ、配電盤へ入る。

「これ見てくれへんか。」それはアンテナの電源である。「テレビ見てないので、ニュースが知りたい。」と言われる。「臨時配線でご迷惑してください。」共助のようだ。やはりテレビのニュースは大切だ。ラジオも必要だ。生活物資はもちろんである。折失した工事はメーター一回で切る。工作機器が壊れ財産を失い誠に気の毒に思う。「電気送りますよか。」「電灯がつくようにしてください。」「1回路ブレーカーの二次側にコンセントを再利用して送電した。」「動力は関西電力へ」と、電話番号を案内して次の家へ行く。

病院の前で、「関西電力の人ですか。」「いえ違います。」「協力店です。」「先程見てもらったのですが、電気がつきません。」「1次配電盤OK、家庭部分への第2分電盤



の分岐が切つてある。再度計測OK、投入する。「つきま  
した。先発隊の入れ遅れであった。

時は過ぎ、震れてくる。市場へ入る。あまりにも軒数  
があり、裏口より声を掛け出てくる家のみとなる。シャ  
ッターがあり、調査不能である。OKの店は安心だが  
調査出来ない店が連なっており、もし1軒からでも出火  
したら…と、とても不安でならないが、どう仕様もなく  
残りは明日に……。

だが、私たちを見つけて「うちも見て欲しい。」倒れ  
て道をふさいでいる木造の家を踏んで、ガレージの破  
れたフェンスをくぐる。「ひどいなあ。」と、どちらから  
ともなく声が出た。その家はOK、だったので逃げるよ  
うに支那に帰った。

やはり、「うちも見て欲しい。」と、次から次へと声が  
振がり、まっすぐには帰れなかったようだ。同じように  
翌日も続いた。早く復旧して今までの日々が帰って欲  
しい。二度とこんな作業はしたくないと、胸の中は思い  
で一杯であった。

## 精一杯の作業

山南 孝(姫路市・播州支部)

1月22日早朝冷たい夜の中、組合員有志は、関西電  
力姫路営業所に勤務し、被災地に出発した。道路は許  
可証を標示して何となく走行、到着あたりまで到着。あ  
の神戸の街並みが一変して灰色となり、かつての面影  
は見るも無惨に破壊され、或いは焦土と化し、テレビ  
画面の比ではなく、あまりのすごさに言葉も失った。

復旧活動拠点の兵庫電工組合本部に集まり、腕章と  
ヘルメットに張るシールを受け出勤準備を完了し、注  
意事項などを聞いていたうちにだんだんと身の引き  
締まる思いとなった。3名1組になり、兵庫区南西形の  
点検作業にあたった。一軒一軒メジャーを当たり、放送  
電されている屋内配線の点検をしていった。特に危険  
ないと感じながら天井裏の点検もおこなった。

「漏電のせいでパンが焼けない」「火災でもないのに  
火災報知機が鳴る。」等など、次から次へと依頼を受け  
ながら、精一杯の作業を続けた。服られた時間の中で  
気は焦れども、まますらふ充分なことができないまま  
現場を離れたことは今も心残り。

今後このような非常事態が発生すれば、何時でも参  
画できる体制を確立しておかなければならないと思っ  
た。

## 体験を今後の糧に

伊勢 信幸(豊岡市・但馬支部)

1月17日午前6時48分、地震により、おたき起こされ、  
一瞬、1階に寝ている長女のことに気がつき、階段を降り  
ようとしたが横断板がひどく、柱に捕まり立っている  
のが困難な状況。揺れもおさまり家族の安全を確認し  
た後テレビを付けると、続々と各地の震度状況の報道  
が有り、神戸が震源である事が発表され、余震を察知  
し、ガスの元栓を閉め、ただ通りすぎるのを待つだけ  
で、長男が神戸にお世話になっているまで思いがけ  
なかった。

余震が収まり、子供のことが気にかかったので数回、  
電話するが通じない。やっと地震から1時間ほどして、  
子供から安否を知らせる電話があり、お世話になって  
いる会社の社長一家全員無事であるとの連絡に家族  
で喜びあったが、テレビには神戸の被害状況が刻々と  
映し出されており、後に8千人余り犠牲者が出ると思  
いもしなかった。

1月20日夕刻、災害復旧隊の要請があり、翌21日朝4  
時に豊岡を出発。途中他の支店と合流しながら神戸市  
内に入ると、目に飛び込んできたのは、家屋の倒壊、道  
路の陥没、地割れ。そして電気、電話の引込線が地上す  
れすれに垂れ下がった無残な状況。空もまるで戦場の  
集地獄のようだった。

関電三宮営業所で、受け持ちの地区が決まり、現場  
に着くと朝見た光景と同じで路地へ入ると、その被害  
の大きさに驚きはますます増した。関電よりメジャー  
、危険と判断ならばメーター1次線取り外しという作業  
指示。区内(9人)で相談(手持ち工具が少ない)した結  
果、1軒でも多く点検(安全確認)しようと思い、建物全  
体が崩れかかっている古い文化アパートに、声をかけ  
るとお年寄りが2、3人おび「避難先は一杯で行く所が  
ないのでここにいる。だから電気を切らないでくれ」と  
切望され、作業内容にはない、冷蔵庫のドアが外れて  
いるのを修理したり、いろいろなケースで知識、被害に

遭われた方は、頑張ってくださいとしが声をかけられ  
ない自分に、明日は我が身かと気を引き締めて被災地  
を後にした。

今後の災害に備えて、倒壊した建物の1次線取り外  
の道具は、2巻はして、電工クランプ、潤滑が必要と思  
う。また、今回の震災で水道が破壊されている為、場所  
によっては電気が通じていないところもあり、自動販  
売機が使えない状況を想定し、水筒(中にお茶を入れ  
ておく)をぜひ必要なものにつく加えてほしい。

阪神・淡路大震災災害復旧隊に2日間だけでも参加  
させてもらったことに感謝する。

## (3)支援活動を振り返って

兵庫県電気工事工業組合は、復旧応援隊として召  
力いただいた組合員の方々に今後の緊急時対応の参  
考とするためのアンケート調査を実施した。

- 1.緊急出動の要請を受けて、何を準備して現地に向  
かわれましたか。  
①身の回り品～ 下着等着衣、防寒着・寝袋、カッ  
パ、手袋、タオル。  
②食料品等～ 弁当、水・茶、即席めん、菓子・コー  
ヒー。  
③工具類～ メガ、テスター、錐立、腰道具。  
2.準備された物うち、特に不用と思われた物は何  
でしたか。  
VA電線、器具  
3.何よりも、これだけは持参すべきと思われた物は  
何でしたか。  
自転車、錐立、カッター  
4.出勤現場で特に困ったことは何でしたか。  
作業調整・連絡不能  
5.食事の調達は、受け入れ側の手配で足りました  
か。  
足りた(80%)  
6.宿泊施設で困ったことは何でしたか。  
宿泊施設が遠い  
7.宿泊施設で、緊急時でもこれだけは整えて欲し

いと思われたことは何でしたか。

トイレ

8.今回の出動にグループで携帯電話を持参されま  
したか。

持参した(80%)

9.非常時の対応として、各支店に緊急用の携帯電  
話を常備する必要があると思われましたか。

思う(80%)

10.非常時に即応できるように、支店に緊急対応の  
体制(組織)を創つておく必要があると思われましたか。

思う(80%)

11.その他、何でも結構ですが今後の参考のため、  
ご意見をお聞かせください。

- ・緊急応援体制の確立…組合で編成、指揮者と電  
力会社の打ち合わせ
- ・組合のシンボル必要…ヘルメット、腕章
- ・本部に連絡網確保…情報の連絡など
- ・住宅地帯必要



電柱が折れ倒壊が露出…豊田区  
(関西電力兵庫営業所・点検への到着より)



## (4)震災後の小工事受付け

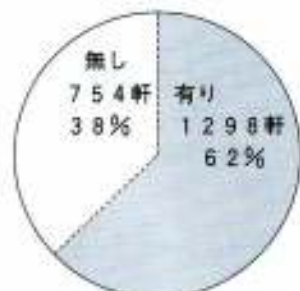
阪神・淡路大震災の屋内電気設備への影響調査結果  
兵庫県電気工事工業組合(三宮・兵庫・尼崎・西宮・明石・淡路)  
6支部合計

### 1.震災後のでんき工事ホームセンター申込分

(1)震災関係 有り・無し 別内訳

(平成7年2月～平成7年6月)

N=2052軒



### (2)震災による不良項目別内訳

(平成7年2月～平成7年6月)

N=1298軒

不良項目

A	配線器具不良	297
B	絶縁不良	265
C	屋内調査の申込み	215
D	照明器具不良	183
E	上水道ポンプ不良	20
F	配電盤異常	36
G	屋内配線関係	33
H	キュービクル動作	4
I	引込小柱傾斜	35
J	その他	224

・配線器具不良・絶縁不良・照明器具不良が77.4%  
(745軒)となっている。  
・お客さまからの屋内調査の申し出が215軒あるが  
平常時ではほとんどないものである。  
(仮設住宅への訪問、計器設置等も含む)

でんき工事ホームセンターの申込分  
の震災の影響が有ると認められるもの  
が、62%占めている

### (A) 配線器具不良箇所別内訳

N=297軒

コンセント破損	183
スイッチ破損	40
引出シーリング破損	53
ブレーカ破損	21

・コンセントの破損が約62% (183軒) 占めている

### (B) 絶縁不良原因・箇所別内訳

N=265軒

器具取付接続箇所	46
配線り	79
外灯・看板灯取付	45
水槽・金魚鉢の水漏れ	4
冷蔵庫等の機器本体	12
配線接続BOX内	9
その他	69

・配線りによる絶縁不良が約30% (79軒) 占めている。  
・器具取付接続箇所・外灯・看板灯取付の不良が  
約35% (92軒) 占めている。

### (C) 照明器具不良

N=183軒

吊り下げコード	122
直付け蛍光灯取落	49
玄関外灯取落	12

・吊り下げコードの照明器具が約67% (122軒)  
占めている。

## 5. 今後の教訓

このところ、近畿地方では比較的地震が少ない時期  
が続いていた。こうした中で、突然に襲った震災は、大

都市における直下型地震として過去に例を見ないも  
のであった。地震に対する意識や備えが十分でな  
かったこともあって、組合の対応も戸惑いがあった。こ  
のことを反省し、課題を明らかにすることによって教  
訓とし、次の非常時の危機管理指針を作成した。

## 非常時の危機管理指針

### 第1 目的

この指針は、非常災害が発生し、または発生する恐  
れがある場合の対応について、兵庫県電気工事工業  
組合(以下「組合」という。)の位置付けを明確にし、電  
気保安の確保と災害の復旧に迅速、かつ適格に対処  
し、電気工事業者としての社会的責務を遂行できるよ  
うその大綱について定める。

### 第2 体制の整備

第1の目的を達成するため、次の体制を整備する。

- (1) 重要事項の協議、決定、指示の体制
- (2) 緊急連絡の体制 および 緊急連絡の予備体制の整備
- (3) 情報収集および提供の体制
- (4) 災害の状況により、非常災害対策本部設置の体制
- (5) 関西電力神戸支店等関係機関との連絡、連携の体制
- (6) 非常時の指揮命令系統
- (7) その他、理事長が必要と認める事項

### 第3 非常時の指揮命令

- (1) 非常時の対応で、かつ緊急を要するときは、この指針の範囲において理事長が統括し指揮命令する。
- (2) 理事長に事故があるとき、または欠けたときは、理事長があらかじめ指名した順位により副理事長が統括し指揮命令する。
- (3) 前(1)及び(2)にカガわらず非常災害対策本部を設置したときは、その設置要領の定めるところによる。

### 第4 組合本部職員の役割

非常時における組合本部職員は、理事長の指揮下  
で次の業務に従事する。

- (1) 組合役員及び組合支部への緊急連絡
- (2) 関西電力等関係機関との連絡、連携
- (3) 情報の収集と提供
- (4) 非常災害対策本部設置の場合の事務局業務
- (5) その他、理事長が命令する業務

第5 組合本部及び支部は、この指針に基づき、あ  
らじめ定めた事項を基本として行動する。

- (1) 非常時の兵庫県電気工事工業組合の位置づけをする。
- (2) 非常時の緊急体制に基づく
  - ・緊急時連絡網
  - ・緊急時の情報収集、提供
  - ・関西電力等関係機関との連絡、連携
- (3) 非常災害対策本部設置要領(省略)
- (4) 救援出動体制の整備(省略)

第6 組合支部は、この指針に定めた事項のほか支  
部長が必要と認めらるる事項については、別に支部で定め  
る。

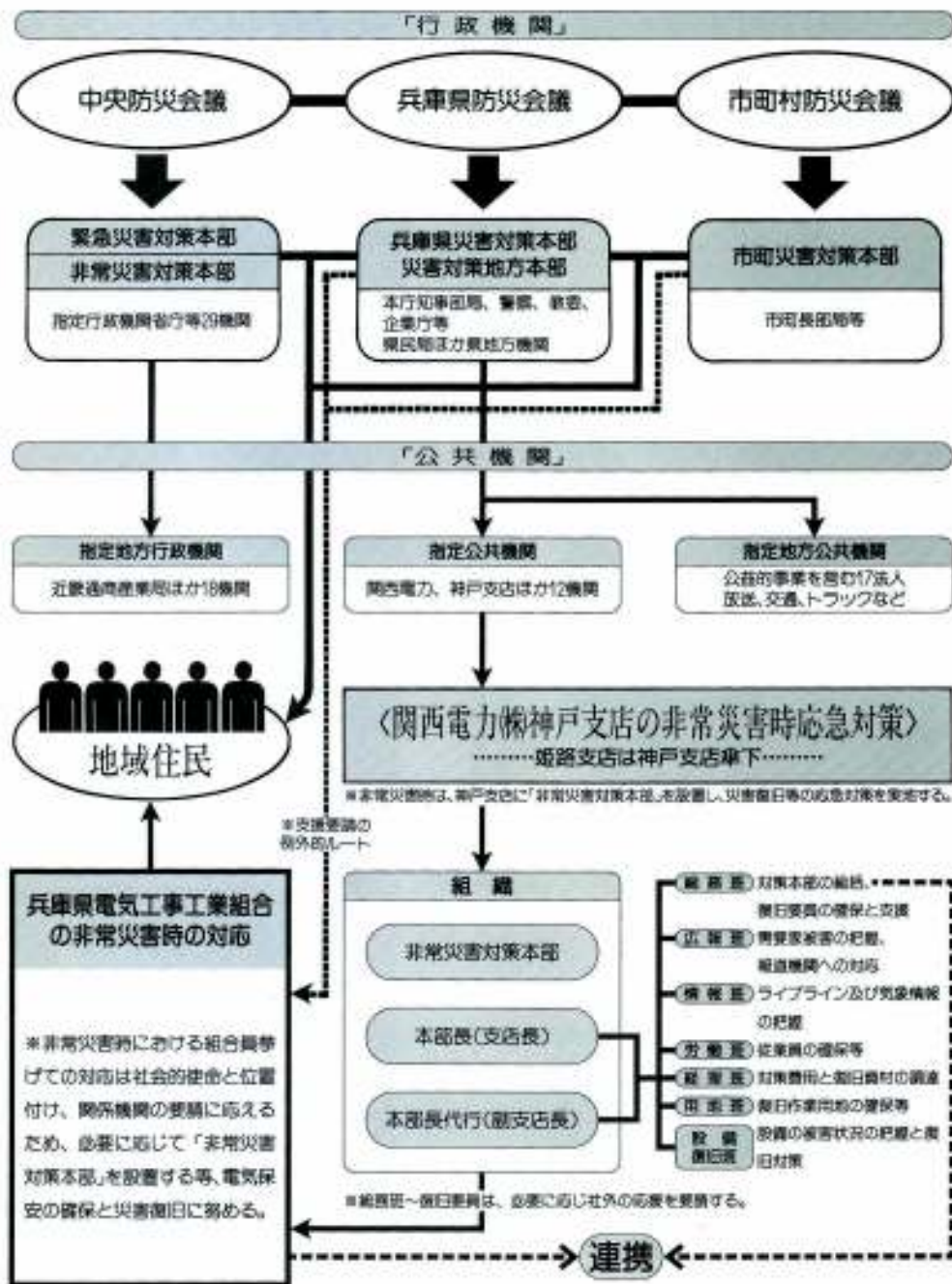
### 第7 他府県への救援出動

- (1) 近畿府県工組からの支援要請については、関西電気工事工業会の指示により行動する。
- (2) 近畿以外の府県工組からの支援要請については、組合本部三役の協議により方針を決定し、これにより行動する。

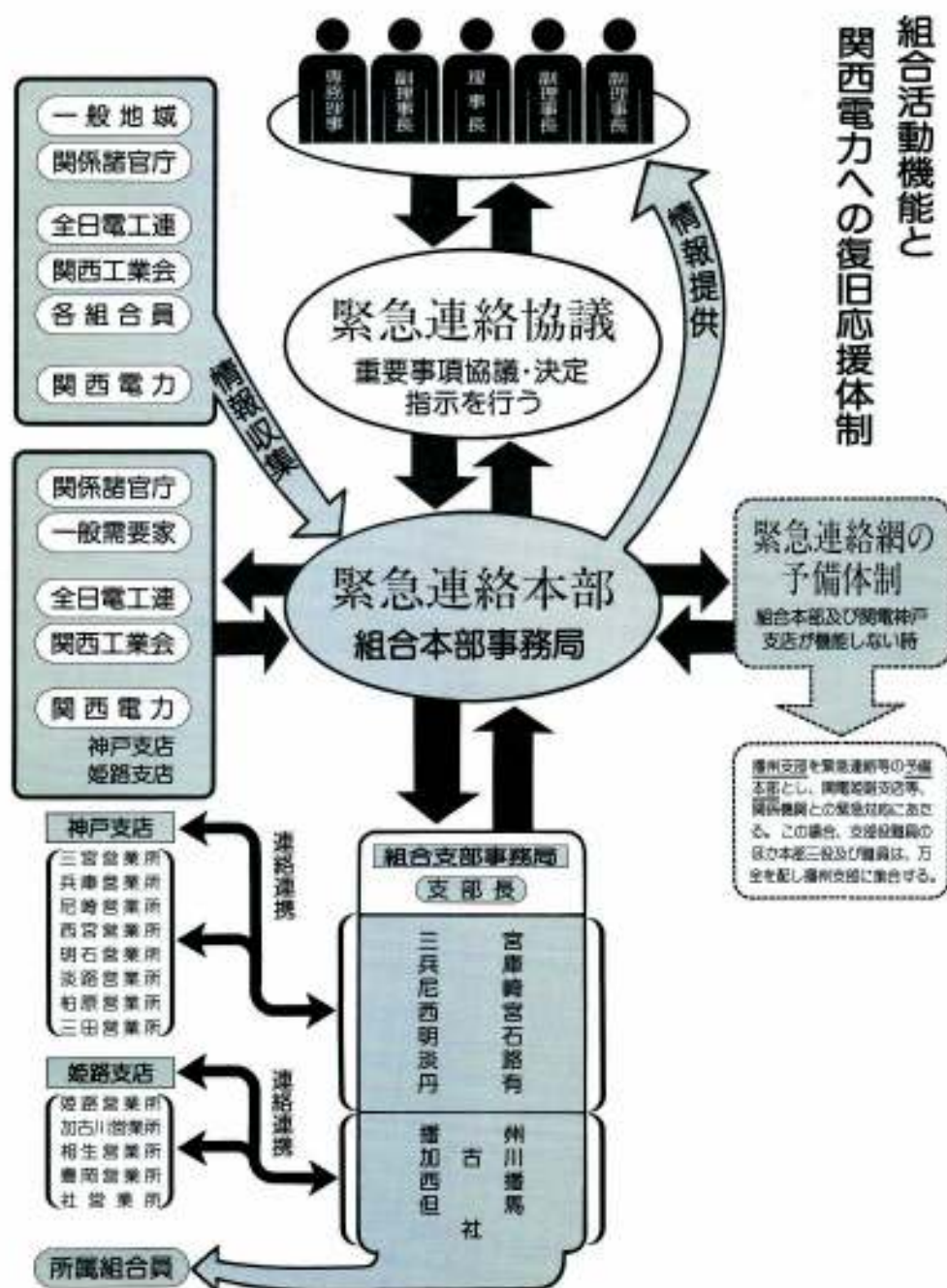
第8 この指針は、理事会の承認を得て平成7年12  
月6日から実施する。



# 非常時の兵庫県電気工事工業組合の位置づけ※災害対策組織系統図



# 非常時の緊急体制









## 7.復興に向けて「兵庫フェニックスプラン」を策定

兵庫県は、阪神・淡路大震災により、機能的に高度に発達した近代都市がいかに脆弱な一面も持っていたか、認識を改め、被災者からの提言や県民アンケート、各分野にわたる復興県民会議、学術団体、市民団体、県民等からの提案をもとに、被災各市町の復興計画との調整を図りつつ、300万人を超える被災地域の住民の1日も早い生活の安定と被災地の速やかな復興・創生を目指して復興計画「兵庫フェニックスプラン(Hyogo Phoenix Plan)」を策定した。

この復興計画の目標年次は、2005年(平成17年)。対象地域は兵庫県内の災害救助法対象地域である10市10町(神戸市、尼崎市、明石市、西宮市、洲本市、芦屋市、伊丹市、宝塚市、三木市、川西市、津名町、淡路町、北淡町、一宮町、五色町、東浦町、緑町、西淡町、三原町、南淡町)。復興事業の内容については、これら被災市町を越えた地域も含む。

同復興計画の基本理念は、「人と自然、人と人、人と社会が調和する『共生社会』づくり」。

基本目標は①21世紀に対応した福祉のまちづくり②世界に開かれた、文化豊かな社会づくり③既存産業が高度化し、次世代産業もたくましく活動する社会づくり④災害に強く、安心して暮らせる都市づくり⑤多核・ネットワーク型都市圏の形成。

基本方針は、被災者の中には、精神的、物質的に大きな被害を受け、将来にかけた人生の夢や展望が持てない人、目の前の現象しか考える余裕がなくなっている人が少なくない。これらの人々が自力復興への意欲と活力を持ち、新しい生活を切り開くためには、どれほどの誘導と支援が可能となるかが復興の鍵を握っており、本計画は、これらの直面する課題に対し、きめ細かい様々な政策的努力を重ねることを前提とする。

2、今回の地震による被害を、これまでの「利便」「効率」「成長」を重視する都市文明への大きな警告と受けとめ、被災地の責任として、「安全」「安心」「ゆとり」をキーワードとする都市を復興しなければならない。国の理解を帯びながら、大災害の現場から得られた教訓を生かし、従来の考え方を越えた都市基盤の整備とそれ

を活用したコミュニティ形成のモデル地域をめざすこととする。

3、復興に当たって重要なことは、単に1月17日以前の状態を回復するだけではなく、新たな視点から都市を再生する「創造的復興」を画し通ずることである。そのため、「兵庫2001年計画」の総合的点検において示された「21世紀初頭の新たな兵庫の創造についての基本的な考え方」と「被災地域の長期ビジョン」のうえにたって、関西国際空港開港、大数港ベイエリア整備、明石海峡大橋建設等により世界都市関西の形成が期待されるなか、阪神・淡路の文化的特性を活かし、新しい都市文明の形成をめざすこととする。

基本目標に沿った復興事業計画では、「21世紀に对应した福祉のまちづくり」が、被災した住宅の復興にあわせ、高齢者や障害者をはじめとするすべての人々が、安心して暮らせるコミュニティの形成をめざし、「すこやか長寿大作戦」にもとづき、社会福祉施設等の整備を進めるほか、地域活動やボランティア活動のネットワーク化などを通して、共に生きるノーマライゼーションの理念を基調とし、保健・医療・福祉機能が連携した生き甲斐をもてる地域づくりを進める。

「世界に開かれた、文化豊かな社会づくり」では、阪神・淡路地域は、すぐれた生活環境のもと、海外文化を積極的に受け入れ、日本を代表する個性あふれる市民文化を形成してきた。今後、生涯学習のネットワーク化などを通して文化豊かな、ゆとりとアメニティに富む国際性豊かなまちづくりを推進する。

「既存産業が高度化し、次世代産業もたくましく活動する社会づくり」では、21世紀の成熟社会に向けた新たな産業構造を構築するため、既存産業の高度化、新分野進出といった従来からの取り組みに加え、新産業創造システムの形成、高度集客都市圏の形成、国際経済文化機能ネットワークの形成を本格的な3つの重点課題とし、計画的な復興に取り組む。また、事業推進の際には、民間能力の活用を図りつつ、多様な産業基盤整備プロジェクトの適切な推進を図る。

「災害に強く、安心して暮らせる都市づくり」では、

大震災の反省と教訓を踏まえて災害に強い安全なまちづくりをめざして、地域防災計画を見直し、防災体制の充実強化を図るとともに、総合防災情報システム、防災拠点など防災機能の整備を進める。

「多核・ネットワーク型都市圏の形成」では、被災した阪神・淡路地域の復興にあたり、新たに都市核の整備が進む大阪湾ベイエリア地域や山陽自動車道沿線の内陸部との多核・ネットワーク型都市圏を形成し、安全で環境保全に配慮したゆとりある地域整備を進める。

なお、被災市町でもその地域特性にあわせて復興計画が打ち出されている。主な市町の復興計画の指針は次のとおり。

### 神戸市

#### 新しい神戸の創造を

神戸市は、世界に開かれた都市として、「安心」「活力」「魅力」「豊穡」の4つの目標を掲げ、未来に誇れる新しい神戸の創造をめざし、復興まちづくりを推進する。

### 西宮市

#### 文教住宅都市をめざして

西宮市は、「安全」「安心」そして「希望」に満ちた文教住宅都市をめざして、「復興理念」とし、魅力と活力にあふれ、住み続けたいと願う、希望に満ちたまちの実現をめざす。

### 芦屋市

#### 国際文化住宅都市創生を

芦屋市は、誇りと愛を感じる国際文化住宅都市の創生を基本理念に、新たな魅力ある都市空間と都市機能の創出、快適な環境の創出、自然とアメニティの創出などを目標に取り組みで行く。

### 宝塚市

#### 人間性の尊重を基本に

宝塚市は、自然環境と美しい街並みを大切に、ここに「住まい・集う」すべての人々が「人間性の尊重」を基本とした安全で快適な都市づくりを基本理念に、いきいきとした都市へと復興して行く。

## 編集にあたって

あの瞬間!! 忘れることのできない「阪神・淡路大震災」から1年が過ぎ、それぞれに課題をかかえながら「豊穡」「豊穡」と、懸命に生活をしていきます。

この記録は余りにも悲惨であり、犠牲になられた方々には、言葉で表現するには限りあるものがあります。しかし、この震災により得た教訓、人の道といった生きるための基本を学びとることができました。

この1年を機に、組織を生かした活動した組合の記録を主に、今後の指針を冊子にまとめ発行することができ、その中で改めて広報の必要性、記録保存の重要性を再確認することができました。

内容につきましては、限られた枚数でもあり、当時、組合運営、支援活動などに大きく貢献されご協力頂いた方々も多くあり、ご紹介できなかったことを残念に思っておりますが、何分ご理解頂き、ご寛くください幸いです。

最後になりましたが、冊子編集にあたり、ご尽力、ご協力頂いた皆さまに感謝とお礼を申し上げ編集者の言葉といたします。

### 広報委員会

委員長：北口嘉一(兵庫) 副委員長：安田裕(尼崎) 委員：田中純男(三宮)藤田文基(尼崎)花田庄一(西宮)柏原和夫(明石)竹治茂男(淡路)芦田元之(丹波)加川君盛(姫路)井上吾朗(加古川)山根和夫(西播)芝本栄一(社)

### 「阪神・淡路大震災」をふりかえって

平成8年1月17日発行

発行 兵庫県電気工事工業組合  
神戸市兵庫区御崎本町2-9-7

編集 広報委員会

制作 株式会社 電電